

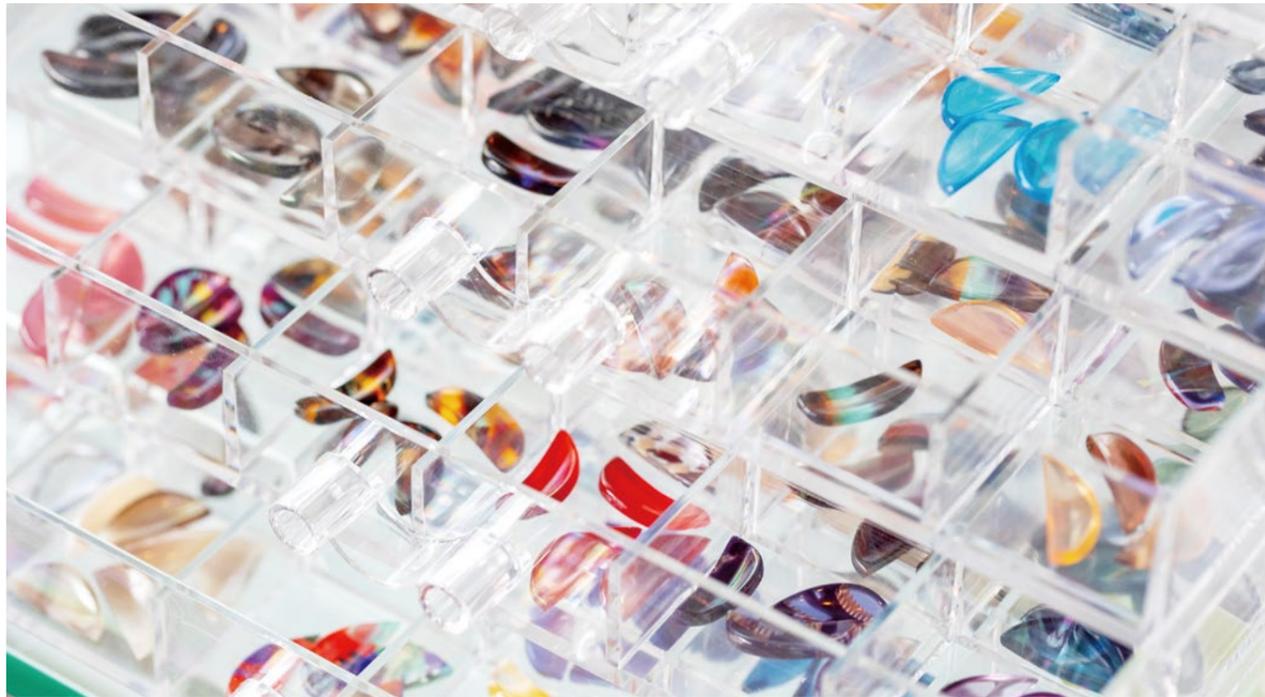
前向きに挑戦する福井の企業を応援します

F-FACT

ファクト > Fukui advanced companies' try

[特集] 相談窓口・補助金を
事業の追い風に

Vol. 58



(上) 同社が製造している鼻パッド、色も柄も様々です。
(下) アセテートを再加工したアクセサリ、鼻パッド製造時に出る端材を使用しています。

鏡素材を使ったアクセサリについては、先行企業もあり、価格設定が悩みどころです。さまざまな考え方があり、当社としては多くの人たちに触れてもらえるよう、普段使いできるリーズナブルな価格設定で展開していきたいです」と話します。

開店は今春の予定で、本業に差し障りがないようごんまり始め、開店告知も

顔をみせません。松原氏は「今までも補助金の情報はいろいろと耳にしましたが、当社の業務に当てはまるのか否かがなかなか分かりませんでした」と振り返った上で、「やりたい事業のプランを携えて相談することで、それに当てはまる補助金などを示してもらえると分かりました。業界に携わって40年ほどになりますが、こうした挑戦の機会を与えてもらえたいです」と笑顔を見せます。

援センターのある丸岡には毎週とっていいほどの頻度で通いましたね。申請書全体が一つのストーリーになっていることが重要という助言もあり、写真やグラフを交えて見やすさを追求したと話します。

小さく産んで育てる 店舗運営を心がける

事務所を改装して出来た店内には、商品展示の棚、商談

用のテーブルなどのほか、予約の体験スペースも設置。小売だけでなくものづくり体験もできる空間とし、現在、少しずつ開店の準備を進めていると語ります。

ブランド名はスペイン語で蝶を意味する『mariposa (マリポサ)』とし、サングラスのフレームをモチーフにしたロゴマークも作りました。商品はイヤリング、指輪、ネックレス、キーホルダーなどを予定。長谷川氏は「眼鏡素材を使ったアクセサリについては、先行企業もあり、価格設定が悩みどころです。さまざまな考え方があり、当社としては多くの人たちに触れてもらえるよう、普段使いできるリーズナブルな価格設定で展開していきたいです」と話します。



開店準備中の店内、様々なアクセサリが並んでいます。

眼鏡用鼻パッドの加工技術、アクセサリーに展開



鯖江市にある松原蝶製作有限会社は、1960年創業以来、アセテート製鼻パッドを一貫して手がけるメーカー。同様の鼻パッドを手がける同業者の廃業が相次ぐ中で唯一残った企業で、国内ブランドのシェア90%を誇っています。コロナ禍を機に新事業の取り組みを模索した同社。国の事業再構築補助金の採択を受け、現在、技術力を生かした眼鏡部品小売店の準備を進めているところ。補助金申請に至った経緯、企画中の商品、今後の展開などについて、代表取締役・松原倫岳氏、企画担当の長谷川亜美氏に伺いました。



代表取締役 松原 倫岳 氏

DATA

松原蝶製作有限会社

所在地: 鯖江市北野町1-1-20 代表者: 松原 倫岳 氏
事業内容: 鼻パッド製造、アセテートプレス加工
TEL 0778-51-2752 従業員数: 10名 資本金: 300万円
URL: <https://matsubara-nosepad.co.jp/>



同社HPはコチラ!

コーディネーターの支えが 事業計画書作成を後押し

新型コロナウイルスが広がるまでは特に新事業の取り組みを意識していなかったという松原氏。「コロナ禍までは日々の受注を回すので手一杯。次の展開を考える時間は正直取れなかったですね。でも、コロナで売上高が前年比4割減まで落ち込んでしまった。いくらオンラインワンをうたつても、受託中心ではガタガタになるということを痛感しました」と振り返ります。

そこで、松原氏は業界仲間から耳にした補助金の情報を基に、福井県「ふくいの逸品創造ファンド事業」の申請を通じて知ったというふくい産業支援センターに相談。相談に応じたコーディネーターから、製造から販売までが全て社内で完結するもの、つまり自社ブランド商品の開発を勧められました。

助言を基に、松原氏や長谷川氏は、▼アセテート素材をアクセサリーに再加工▼新業態の眼鏡部品小売店を開店

▼自社アクセサリーブランド開発▼オンラインでのアクセサリワークショップ運営——などを軸とした事業再構築案を立てました。新業態展開に当たっては約10坪の事務所を店舗に改装することとし、事業総額1500万円の3分の2を補助金とする計画で申請。第3次公募で採択されるに至ります。

「採択の知らせを聞き率直に驚きました。補助金は全くの別業種・別業態でないと採択されないと思っていたからです。不採択を見越して次年度の再挑戦に向け準備をしていくつもりです。松原氏は振り返ります。

松原氏は、採択に至った大きな要因として「総合相談窓口のコーディネーターとの出会い」を挙げます。

「補助金の募集要項には理解が難しい箇所が多々あり、検討中の新規事業が補助対象になるかどうかの判断がつきづら。難解な文章を分かりやすくかみ砕いて解説してもらえて助かりました」

申請書の作成に当たった長谷川氏も、審査員の視点に即したアドバイスがあったことに感謝を示します。

「眼鏡業界に携わっていない人も分かるように」という助言を基に、書いては添削を繰り返していききました。(支

CONTENTS

表紙 松原蝶製作有限会社の商品写真

- 1 【相談窓口企業事例①】松原蝶製作有限
- 3 相談窓口・補助金を事業の追い風に
- 5 【補助金企業事例①】(株)カケヒ
- 6 【補助金企業事例②】bloom
- 7 【補助金企業事例③】(株)ねこまる
- 8 【補助金企業事例④】福井和泉リゾート(株)
- 9 支援センターの令和5年度補助金・事業案内
- 11 今月の注目企業 同グッドモーニング
- 13 よろず支援拠点 経営Q&A
- 14 総合相談窓口からのご案内
- 15 DXデビューしませんか
- 16 ベンチャー創出プロジェクト
- 17 グッドデザインシンキング
- 18 インフォメーション
- 21 新スポット巡礼

相談窓口・補助金を 事業の追い風に



国や県、市町村では毎年度、中小企業の皆様を支援する各種補助金や支援施策を用意しています。ふくい産業支援センターも様々な支援施策を準備していますが、とりわけ相談窓口や補助金への関心は高いのではないのでしょうか。今回の特集では、支援センターの補助金や相談窓口を活用して事業を発展させた、創業したという企業の方々にお話を伺って参りました。

コーディネーターインタビュー

相談窓口・補助金活用のコツを探る

ここでは、ふくい産業支援センターの総合相談窓口でコーディネーター（以下、C○）を務める吉村氏に補助金を利用するにあたっての注意点やメリット・デメリット、相談窓口で対応する際に心掛けていたこと、といったお話を伺いました。（本稿は吉村氏へのインタビューを元に再構成したものです）

—— 補助金を利用するメリット、デメリットは何でしょうか。
補助金のメリットとしてまず挙げられるのは、**資金調達**の負担が減るという点だと思います。資金調達の手段としては融資も考えられますが、融資と違い補助金は返済の必要がありません。精算払いであるため、一旦補助事業に関

わる支払いを全て行う必要はありませんが、それでも資金面での負担が軽減されることには間違いありません。もう一つは申請書の作成等を通じて、**経営状況や方針、将来のビジョン**といったものが文字になり、可視化されるという点が挙げられます。

一方でデメリットの部分ですが、どうしても**事業のスピード感**は落ちてしまいます。補助金によりますが、申請から採択、交付決定までに長いと半年ほどかかってしまう場合もありますから……。また、デメリットではないかもしれませんが、本来手段であるはずの「補助金に採択されること」が目的になってしまふのは危険だと考えています。ある経営課題に対して、こうしたいという目的や計画

があり、それを達成する手段として補助金を活用するというプロセスの方が望ましいと思います。こんな補助金があるからこういうことをやろうというのも一つの考え方ではありますが、**採択されることそのものが目的**になってしまわないよう、注意したいですね。

—— 補助金を利用するに当たって、心掛ける点などはありますか。
補助金にはそれぞれ必ず目的があり、各メニューによって細かいルールが要綱という形で示されています。国の補助金ならば国からの、県ならば県からのメッセージが要綱に反映されていますので、申請書や計画書を上手く書くこととするのではなく、まずは

要綱を熟読することが大切だと思います。要綱の量が多いものはどうしても斜め読みをしてみてくださいですが、**要綱の中にこそヒントがある**という意識で熟読することが、採択への近道となるのではないのでしょうか。

また、補助金は補助事業の全ての資金をカバーするわけではありませぬ。補助金によってかかった経費のうちの1/2、2/3という風に補助率が定められているので、補助の対象とならない部分についてはどのように資金を調達するか、事前に計画してお

くことが必要です。他にも、原則として交付決定後に事業を開始しなければ補助の対象とはならないという点も気を付けたいですね。

—— 相談窓口でも補助金に関する相談はありますか。
もちろん相談窓口でも補助金に関する相談をお受けすることがあります。私が相談対応を行う中では、本当に補助金を活用するのがベストなのかということを特に意識して

対応しております。先ほど申し上げたように、ある目的を達成するための資金調達手段の一つが補助金・補助制度ですので、対話を通してお互いが納得した上で、最も良い選択ができるようサポートいたします。また、補助金に関する相談を受ける中では、必ずこの事業をやるという意志を強く持っている方や難しい補助金でも自身で何とかしようとする方は印象に残りますし、強いと感じますね。

—— 最後にメッセージをお願いします。
補助金の申請書や計画書を事業者の方一人で作成されると、客観的な視点が欠けてし

まう場合もありますので、申請書や計画書の作成でお困りの際は、総合相談窓口をご利用ください。現在9名のCOが配置されていますが、多方面で知見を蓄積しておりますので、必ずお役に立てることがあるはずですよ。1人のCOに継続して相談するのも良いですし、都度違うCOに相談するのも一つの利用の仕方だと思います。もちろん、その他の経営全般のご相談にも対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

令和5年度の詳細はP14へ！

図1 補助金受給までの5つのステップ

中小企業庁「ミラサポプラス」(https://mirasapo-plus.go.jp/subsidy/guide/)をもとに(公財)ふくい産業支援センター作成

1. 知る

補助金は、さまざまな分野で募集されています。まずは自分の事業とマッチする補助金を探しましょう。

2. 申請する

申請したい補助金を見つけたら、公募要領・申請書を確認のうえ、申請書として必要書類一式を事務局に提出します。補助金によって提出方法が異なり、電子申請か書面による郵送があります。詳細は事務局のページや公募要領をご確認ください。

3. 採択される

採択事業者が決定され結果が事務局から通知されます。採択後は、補助金を受け取るための手続き（「交付申請」といいます）が必要となります。その内容が認められたら「交付決定（補助事業の開始）」となります。

4. 事業の実施

交付決定された内容で事業をスタートします。事業内容を変更せざるを得ない場合は、事前に所定の手続きが必要です。補助金の対象となる経費については、領収書や証拠書類をすべて保管しておきます。

5. 補助金の交付

実施した事業の内容や経費を報告します。正しく実施されたことが確認されると、補助金額が確定し、補助金を受け取ることができます。



Y Think代表
(公財)ふくい産業支援センター
総合相談窓口 コーディネーター
よしむら ふみお
吉村 文男氏

武生商工会議所で小規模企業事業者の方をメインに26年間経営指導業務に携わり、その後、中小企業診断士として独立。現在、(公財)ふくい産業支援センター総合相談窓口のコーディネーターとして相談対応を行っている。

総合相談窓口に関するお問い合わせ先

公益財団法人 ふくい産業支援センター
新産業支援部 総合相談・コンサルグループ

〒910-0296
坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16
TEL 0776-67-7425 FAX 0776-67-7429
URL https://www.fisc.jp/consult/sougo/



洋菓子店オープンに補助金活用 理想を形に



昨年10月、越前市にオープンした洋菓子店bloom。オープンにかかる初期費用の一部にUターン移住創業支援事業助成金を活用しました。オープンまでの経緯や補助金活用のお話などを代表の石橋大輔氏に伺いました。



同社HPはコチラ!

DATA

bloom
 所在地:越前市新堂町20-7
 代表者:石橋 大輔 氏
 事業内容:洋菓子店の運営
 TEL 0778-42-8274
 URL https://r.goope.jp/bloom-echizen/



店内の様子。「レコードを再生したい」と来店される方も。

初期費用の一部に補助金を洋菓子店のオープンへ

石橋氏が移住を計画したのは今から約2年前のこと。当時大阪で洋服店を営んでいた石橋氏ですが、新型コロナウイルスの感染拡大や家族のことを考え、福井への移住を決めたそうです。移住後には10年以上お菓子づくりに携わってきた妻の咲江氏が抱いていた、自分の店舗を持ちたいという想いを実現しようと、洋菓子店オープンの計画を進めていきました。

基本に忠実な洋菓子で地道に店舗の運営を

空き家だった物件を改装した店内はシンプルな仕上がりに。洋菓子はもちろんのこと、石橋氏所有のレコードプレイヤーとレコード約3000枚が置かれており、レコードで音楽を楽しむことができるのも大きな特長となっています。

現在は石橋氏が経営面や接客を、妻の咲江氏が洋菓子づくりを担当。地道に、長く愛される店舗づくりを目指していき考えで「まだまだ手探りではありますが、長く続けていくという意味でも今後はスタッフの雇用もできればと考えています。徐々に、徐々にできることを増やしていければ」と未来図を描きます。

レーザースキャナーを導入し、 3次元測量への対応を進める



1964年に創業し、坂井市で土木・建築工事の設計・施工等の事業を手掛ける株式会社カケヒ。同社は以前から進めていた3次元測量を全現場で行うことを目標に、補助金を活用しレーザースキャナーを導入しました。補助金活用の経緯やその成果について、担当の岡村佳仰己氏、守谷登志男氏にお話を伺いました。



ICT事業部の守谷氏と建築部の青山氏。3次元データの利活用に取り組んでいる。



同社HPはコチラ!

DATA

株式会社カケヒ
 所在地:坂井市丸岡町上金屋第11号13番地(本社)
 代表者:寛 智仁 氏
 事業内容:土木、建築工事の設計及び施工 舗装、管、造園、とび・土工
 工事の設計及び施工 水道施設工事の設計及び施工 など
 TEL 0776-66-2668
 URL https://www.kakehi.jp/



今回導入したレーザースキャナー。ドローンの使用できない現場に3次元測量を可能に。

全現場での3次元測量めざしレーザースキャナー導入

同社が3次元測量を開始したのは、今から約2年前。建設業において「i-Construction」(※1)の推進が叫ばれる中、同社はドローンによる空撮で3次元測量への対応を進めていました。しかし、ドローンによる測量には、現場の条件や障害物により使用できないことも多いという課題があったそうです。

補助金採択までには審査会での苦労も

ドローン導入時も含め、2度目の補助金活用に挑戦した同社。今回のDX加速化補助金では、2次審査会でのプレゼンに特に苦労したそうです。「審査会でプレゼンするのは初めてのことでした。限られた時間でスキャナー導入の効果を説明するのは、本当に難しかったです」と岡村氏。守谷氏も「プレゼンが終わった後、採択されるかどうか不安でした。帰りに二人で大丈夫だろうかと話していました」と振り返ります。

負担減を目指して今後も新しい取り組みを

一方で採択後はスムーズに手続きを進めることができました。岡村氏は「通常業務に加えて補助金の手続きを進めていくことに不安もありましたが、スムーズに進めていくことができました。機器導入にはそれなりの金額が必要ですので、補助を受けることができ本当に良かったです」と話します。

特集 相談窓口・補助金を事業の追い風に

特集 相談窓口・補助金を事業の追い風に

キャンプサイト増設に補助金活用、魅力あるキャンプ地へ



キコリアの全景。キャンプ場から見える夕日は絶景です。



同社HPはコチラ!

福井和泉スキー場の運営会社として設立し、道の駅九頭竜、荒島テラスなどの運営を手掛ける福井和泉リゾート株式会社。同社は昨年、おもてなし産業魅力向上支援事業助成金（以下、おもてなし補助金）を活用し、ガラガラ山キャンプ場内に新しいキャンプサイト（以下、サイト）を設置しました。補助金活用の経緯やサイト設置の狙いを代表取締役の栗守和義氏に伺いました。



代表取締役 栗守 和義 氏

DATA

福井和泉リゾート株式会社

所在地: 大野市朝日前坂27字冬越5番地3 (本社)
代表者: 栗守 和義 氏
事業内容: スキー場の運営(索道事業)、キャンプ場の運営、道の駅の運営
TEL 0776-89-2180 (ガラガラ山キャンプ場)
URL <https://garagarayama.com/> (ガラガラ山キャンプ場)



薪は使い放題で、薪割り機も設置されている。

「休前日には満室の状態も多く、お客様の要望にお応えできないこともありました。この状況を解消することはもちろん、ワンランク上のサイトを増設することでキャンプ場のブランドイメージを高めたかったのです」
増設にあたって、元々存在を知っていたというおもてなし

補助金を活用し、新サイトの設置へ

同社が新サイト増設の計画を始めたのは約1年前のこと。スペースが空いていた棚田跡の有効利用と、更なる集客を目指してのことでした。「休前日には満室の状態も多く、お客様の要望にお応えできないこともありました。この状況を解消することはもちろん、ワンランク上のサイトを増設することでキャンプ場のブランドイメージを高めたかったのです」
増設にあたって、元々存在を知っていたというおもてなし

新サイト設置を推進力に キャンプの聖地を目指す

増設した新サイトは合計8区画で、すべてに電源と水道を完備。レンガチップを敷き詰め、テントが汚れにくい作りになっていくことに加えて、薪が使い放題となってお

り常設の焚火台で思う存分に焚火を楽しむことができるのも特長です。新サイト「キコリア」として昨年10月にオープンしたのち、集客も順調とのこと。栗守氏は「おかげさまでお客様から好評の声をいただいています。使いやすいうサイトに仕上げることで、キャンプを始めるきっかけを作る場所にもなれば」と話します。
現在、年間1万数千人が宿泊するガラガラ山キャンプ場。栗守氏は「サイトを増設した分、しっかりとお客様を増やしていきたいですね。キコリアはこのキャンプ場を成長させる推進力になると考えています」と話します。同社は今後、キコリアから夕日が見やすくなるよう樹木の剪定も行う予定で、更なる改良にも余念がありません。最後に栗守氏は「ここ数年でキャンプブームも起きています。ガラガラ山キャンプ場をキャンプの聖地にしていければ」と意気込みます。

事業所の移転を補助金が後押し 福井から体にやさしいパンを提供



同社HPはコチラ!

昨年5月に岐阜県から福井県永平寺町に拠点を移し、パン・焼き菓子の製造、卸売りを手掛ける株式会社ねこまる。同社はUターン移住創業支援事業助成金の採択を受け、移転費用に活用しました。補助金活用の経緯やパン作りへの想いなど、代表取締役の古澤潤氏（以下、古澤氏）と妻の古澤美智代氏（以下、美智代氏）に伺いました。

DATA

株式会社ねこまる

所在地: 吉田郡永平寺町松岡3-37
代表者: 古澤 潤 氏
事業内容: 手作りパン・焼き菓子の製造、卸売り
TEL 0776-61-0398
URL <https://www.cittadelpane.net/>

製パン業で創業し 移転費用に補助金活用

今から20年前、岐阜県高山市で個人の製パン業として創業した同社。当初はイタリア語で「パンの街」を意味する「チッタ・デル・パーネ」という屋号で営業を開始しました。同社は創業時から無添加、国産小麦を100%使用するといった点にこだわりパンを製造、販売。その後卸売りに専念し、中京圏・関西圏などに向け販売を続け、移住を機に福井県内での販路開拓も進めています。

家庭の都合などのタイミングが重なり、移住を決意したという古澤氏。地元商工会の紹介でUターン移住創業支援事業の存在を知り、申請採択を受けました。古澤氏は「内容を拝見した時に福井県の支援は手厚いと感じました。おかげで事業所の棚や機械を準備することができましたし、有難いですね」と話します。また、美智代氏は「通常の業務に加えて書類の作成などを行うのは確かに大変でした。ただ、費用の面で非常

福井の食材使用も視野に 体にやさしいパンを広げる

「移住したことで、福井県産の小麦粉や玉ねぎ、地元酒造会社さんの酒粕などの食材に出会うことができました」と古澤氏。こだわりを守るため、新商品を考案する際には材料探しに苦労することも多いそうですが、福井県の食材を使用したパンづくりに挑戦していく考えです。「世の中にはたくさんのおいしいパンがありますから無添加、地域のもの



同社の作るパンはシンプルで飽きがこないと評判です。

に助けになりますし、初めての土地で事業を始めるにあたって、様々な情報を得るという意味でもチャレンジする価値があるのでは」と振り返ります。
創業から20年、同社商品のファンも徐々に増えてきているそうで、美智代氏は「お客様からの美味しいといった声や、どこで買えますかという問い合わせを受けると、やりがいを感じます。少しでも体にやさしいパンを広げていければ」と話します。移住をきっかけに法人化も行い、古澤氏は「今後は事業所としての価値を高めるということも意識しながら、事業に取り組みしていきたいですね」と表情を引き締めます。

商品開発・店舗改装・新事業展開などの補助金

ふくいの逸品創造ファンド事業(地域資源を活用した新商品開発・販路開拓支援)

県内の特色ある産業資源(福井の強み)を基に、商品計画を立て、販売経路を開拓する中小企業等の取組みに対して、商品開発、販路開拓等の経費の一部を助成します。

(ア) 地域資源を活用し新幹線開業に向けた新商品開発および販路開拓

【助成率】中小企業1/2以内、小規模企業者2/3以内
 【限度額】200万円
 【対象経費】新商品開発および販路開拓にかかる経費
 【公募期間】令和5年8月頃(予定)

(イ) 地域資源を活用し直近3年以内に商品化した商品の販路開拓

【助成率】中小企業1/2以内、小規模企業者2/3以内
 【限度額】100万円
 【対象経費】販路開拓にかかる経費

ふくい地域経済循環ファンド ~新事業チャレンジステップアップ事業

高い成長意欲と優れた技術を持つ中小企業の新事業活動および国内・海外に向けた販路拡大の取組みに対して助成します。

【助成率】2/3以内
 【限度額】300万円
 【対象経費】新商品等開発および販路開拓のほか、販売網整備や設備導入にかかる経費
 【公募期間】令和5年4月~5月(予定)

おもてなし産業魅力向上支援事業

北陸新幹線の本県開業にあわせ、おもてなし店舗等における観光客等の受入れ態勢を強化するため、店舗・施設の改装や設備導入の経費の一部を助成します。

【助成率】2/3以内
 【限度額】300万円
 【対象経費】事業用建物の増築・改装、設備の導入にかかる経費
 【公募期間】令和5年4月~5月(予定)

P8でご紹介した企業が活用した補助金です!

お問合せ先 経営支援部

TEL 0776-67-7406 FAX 0776-67-7419
 URL <https://www.fisc.jp/> E-Mail shikin-g@fisc.jp

Uターン 移住創業支援事業

県外から福井県内に移住し、本県の地域課題を解決するための社会的事業分野における創業を行う方に対し、その経費の一部を助成します。

【助成率】2/3以内
 【限度額】200万円
 【対象経費】事業拠点開設、新商品・新サービス等の開発および販路開拓にかかる経費
 【公募期間】令和5年4月~5月(予定)

P6・7でご紹介した企業が活用した補助金です!

NEW 海外展示会等への出展支援

県内の中小企業が海外での展示会や商談会に出展する際の経費の一部を助成します。

【助成率】1/2以内
 【限度額】15万円 ※3社以上のグループで出展の場合は限度額100万円
 【対象経費】海外展示会や商談会の出展にかかる経費
 【公募期間】令和5年4月~5月(予定)

5G等通信環境を活用した実証事業

5G等の次世代無線通信技術を活用した新しい製品やサービスの開発等、将来を見据え新ビジネスへ挑戦する取組みに対し、その費用の一部を補助します。

【補助率】2/3以内 【限度額】500万円
 【対象経費】人件費、機械装置費・器具購入費、外注費・委託費、クラウド使用料等
 【公募期間】令和5年4月上旬~5月下旬

令和5年度 各種支援事業情報

(公財)ふくい産業支援センターでは、毎年様々な補助事業で県内企業の取組みを支援しています。ここでは、新年度に募集が始まる補助金や支援事業を一部ご紹介します。(2023年3月22日時点)

※詳細は順次HPなどでお知らせいたします。予告なしに変更になる場合がございますが、何卒ご了承ください。

技術系の補助金

産総研シーズ活用可能性試験調査研究支援事業

今後、本格的な研究開発を行うための前段階として実用化の可能性を探索する調査、試験研究を支援します。

【補助額】最大100万円 【補助率】中小企業:2/3以内、大企業(みなし大企業含む):1/2以内
 【募集】2件程度

中小企業等外国出願支援事業

先端技術を有し、特許や商標など知的財産を活用した海外展開を図る中小企業に対して、戦略的な国際特許等の出願における外国出願費用を支援します。

【補助率】1/2

次世代技術国際発信支援事業

福井県内企業の若手技術者による国際的な学会・展示会等(オンライン開催およびオンライン/実地併催も含む)で福井の先端技術を発表するのに要する経費を助成します。

【補助限度額】1人30万円
 助成対象(発表登録費、出展料、旅費等)の1/2助成
 【募集】2名

お問合せ先 オープンイノベーション推進部

TEL 0776-55-1555 FAX 0776-55-1554
 URL <https://www.fisc.jp/technology/>
 E-Mail foip@fisc.jp

P5でご紹介した企業が活用した補助金です!

IT・DXに関する補助金

ふくいDX加速化補助金

IoT・AI・VR・RPA・クラウドサービス等のデジタルツールを導入し、業務効率化や生産性向上、業務等の変革を図る取組み(DX)に対し、その費用の一部を補助します。

① トライアル枠

【補助率】1/2以内(小規模事業者は2/3以内)
 【限度額】100万円
 【対象経費】機械装置費・システム費、外注費・委託費、クラウド使用料等
 【公募期間】1次募集:令和5年4月上旬~5月下旬
 2次募集:令和5年7月上旬~7月下旬
 3次募集:令和5年9月上旬~9月下旬

② 一般枠

【補助率】1/2以内(小規模事業者は2/3以内)
 【限度額】400万円
 【対象経費】機械装置費・システム費、外注費・委託費、クラウド使用料等
 【公募期間】1次募集:令和5年4月上旬~5月下旬
 2次募集:令和5年7月上旬~7月下旬

お問合せ先 新産業支援部 DX推進グループ

TEL 0776-67-7416 FAX 0776-67-7439
 URL <https://www.fisc.jp/> E-Mail dx-g@fisc.jp

歴史ある古民家を解体・移築 多くの人で賑わう交流の場に

合同会社グッドモーニング

職業の垣根を越えて、地元の有志でつくる合同会社グッドモーニング。今年1月、同社は築230年になるおおい町佐分利地区の古民家をリノベーションするプロジェクトを立ち上げ、『暮らしの複合施設hibi』を完成させました。同施設は、4月にオープン予定のレストラン、グロッサリー&カフェ、レンタルスタジオ、女性専用のよもぎ蒸しサロンなどで構成。福井県よろず支援拠点による広報戦略の支援を得て、県内外から多くのお客さまが訪れています。完成までの経緯とそこに込められた想いを、代表の岸崎圭薫氏に伺いました。

古民家の有効活用に向けて 仲間と会社を立ち上げて

有限会社岸崎工作所の代表取締役を務める岸崎氏。『暮らしの複合施設hibi』開設のきっかけは5年前、同工作所で築230年になる古民家の解体・処分の依頼を受けたことに遡ります。古民家は戦国時代の石山城主・武藤氏の家老の家屋で、江戸時代天明年間（1781〜1789）に建てられたもの。

「代々続く農家で、町の教科書にも載るような歴史ある古民家。そんな建物を壊していいのかと悩み、所有者の方に解体を待ってもらいました」と岸崎氏は振り返ります。

3年後、古民家が台風の被害を受けたことを契機に、岸崎氏は自ら古民家の解体費用を出して材料を引き取ることになった。「この古民家を何に使うか考えるため、同じ感度の仲間」に声をかけ合同会社グッドモーニングを立ち上げまし

た」と語ります。最初のメンバーは同世代の6人で、職業はバラバラ。仕事が終わった後ボランティアで集まり、古民家の活用法を話し合いました。

「最初はレストランにしよう」と話が出たけれど、飲食業をしている人は誰もいない。畑違いの業界でやり方がわからず戸惑っていた時、メンバーの紹介で福井県よろず支援拠点に相談し、主に広報の支援をお願いしました」といいます。

解体時に地元住民を招待 新旧が交わる空間づくり

最終的に、同社は古民家を解体時に地元住民を招待し、梁を再生したベンチや古民家の蔵にあった古道具も展示して。



代表 岸崎 圭薫 氏



hibiのSNSはコチラ

合同会社グッドモーニング

所在地:大飯郡おおい町石山15-1-1(暮らしの複合施設hibi)
代表者:岸崎 圭薫 氏
事業内容:暮らしの複合施設hibiの運営など
TEL 0770-77-1354 (岸崎工作所内)
URL https://www.instagram.com/hibi_good_time/



(上)セレクトショップとグロッサリー&カフェ。
(下)大きな梁や柱など、昔の職人の匠の技がそのまま残っている。

「暮らしの複合施設」として活かし、同じ集落内で大通りに面した場所へ移築することに。解体・移築は「図面のない中どの材料がどの場所のものか、すべてに番号や札を貼る準備が大変でした」と岸崎氏。リノベーションにあたって昔の柱や梁、礎石をそのまま用いる一方、2階以上は新しい材料を使用。「古い材料はサイズもバラバラで、新しいエリアとのドッキングに苦

劳しました」と語ります。解体前に「地域の人に古民家に残るすごい技術を見てもらいたい」と、住民を招いた見学会や地元小学生への説明会を開催。その後も、同社のイベントとして上棟式や内覧会を行い、住民の関心を集めました。

完成した建物は、1階に4月オープン予定のレストランとセレクトショップを置くグロッサリー&カフェ、2階に時間貸しのスタジオと女性専用のよもぎ蒸しサロンという4つ

のコンテンツで構成。茅葺き屋根の構造を残す高い天井を吹き抜けにし、重厚感がありつつ明るく開放的な空間に生まれ変わりました。「歴史ある建築物を残すことが大事。どういう風にすれば未来に残せるか、ここを見て古民家をこういう風に活用できるんだと思う人が増えてくれたら」と語ります。

ワクワクしたい気持ち まちを元気に盛り上げて

同施設のコンセプトは、「お客さまに心豊かに美しく過ごしていただく場所」。大人の女性をターゲットに、レストランは地域の食材を使った洋風の創作料理をコースで提供予定。グロッサリーではおおい町や嶺南の特産品にこだわったオリジナルパ

イを販売し、セレクトショップには小浜の伝統ある塗り箸をはじめ、県内外の手作りのアイテムが並びます。「僕らの思う豊かさ・美しさとは高価なモノや装飾品ではなく、ここでゆっくり過ごし、心穏やかなリズムをつくること。普段をないがしろにしている自分を見直し、心満たされる場所になれば」と岸崎氏はいいます。

今後は、同施設を使った多彩なイベントや、レストランウェディングなどの展開を計画。かつて大勢の人が集まった古民家が、長い歳月を経て、再び地元や県内外からの来客で賑わう交流の場として魅了うとしています。

「このプロジェクトはまちおこしとか大それたことではなく、自分たちがワクワクしたい気持ちで大事にすることで始まったもの。自分たちが楽しく盛り上がることで、まちも元気に盛り上がっていくという感じなんです。僕としてはここで終わりではなく、また違うことにチャレンジしていきたい」と笑顔で締めくくりました。

令和5年度「総合相談窓口」のご紹介 経営に関する様々なご相談に対応します！

総合相談窓口では「**頑張る県内中小企業**」の課題解決をサポートしています！

総合相談窓口では、経験豊かで専門的な知識を有した中小企業診断士のコーディネーターが、皆様からのご相談にお応えします。ご相談は**1回1時間単位**で**何度でも無料**でご相談いただけます。事前予約制となっておりますので、下記のQRコードから**ご予約**の申込みをお願いします（ZOOMでのオンライン相談にも対応）。

相談無料
秘密厳守

《 総合相談コーディネーター 》

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
 北島 宏樹 【専門】経営全般、創業支援、IT活用、テレワーク導入 【資格】中小企業診断士、ソフトウェア開発技術者(IT系)	 吉村 文男 【専門】経営全般、創業支援、マーケティング、事業承継 【資格】中小企業診断士	 松田 博史 【専門】経営全般、現場改善、生産管理、事業承継 【資格】中小企業診断士、ものづくり改善インストラクター	 津田 均 【専門】経営全般、マーケティング、流通・小売・サービス業の相談 【資格】中小企業診断士ほか
 佐々木 孝美 【専門】経営全般、創業支援、IT活用、SNS活用、事業承継 【資格】中小企業診断士ほか	 加藤 永俊 【専門】経営全般、創業支援、マーケティング、経営革新、事業承継 【資格】中小企業診断士、JMAA認定M&Aアドバイザー	 佐藤 悟 【専門】経営全般、創業支援、IT活用、労務、事業承継 【資格】中小企業診断士、社会保険労務士、販売士I級、I級FP技能士ほか	 友田 和幸 【専門】経営全般、省エネコンサル、(カーボンニュートラル)、人事、労務、事業承継 【資格】中小企業診断士、社会保険労務士、行政書士
 前野 壽伸 【専門】経営全般、生産管理・生産技術、6次産業化支援 【資格】中小企業診断士	<p>お知らせ！</p> <p>夜間相談窓口の開設について</p> <p>「平日の日中は仕事が忙しく、相談の時間がとれない！」 そのようなお悩みにお応えするために 夜間相談窓口を開設します。ぜひご利用ください。</p> <p>開設日/木曜日(月1回) 開設時間/①18:30~ ②19:45~</p> <p>3営業日前までの予約が必要です。 月ごとの開催日や詳細はお問い合わせください。</p>		

まずは「総合相談窓口」までお気軽にご相談ください！

嶺北 《事前予約制》

TEL 0776-67-7421

相談日時:毎週月曜日~金曜日 9:00~17:00

相談場所:福井県産業情報センター 3F
総合相談窓口
(坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16)

※コーディネーターの当番日は右記の総合相談窓口HPからご確認ください。事前予約の方優先の対応となりますのでご予約をお勧めします。

嶺南 《事前予約制》

TEL 0770-22-0031

相談日時:毎週水曜日・金曜日
9:00~17:00

相談場所:アクアトム2F
嶺南サテライトオフィス
(敦賀市神楽町2-2-4)

※ご予約がない場合は、**企業訪問等**で不在の場合がありますので、相談を希望の場合は**必ず事前予約**をお願いします。

総合相談窓口
ホームページ



相談予約は
こちらから！



よろず支援拠点 経営Q&A

補助金、助成金の
有効活用法編



疑問の概要

知人の会社が新設備を導入した。大きな投資なのに資金はどうしたのかと尋ねたら、補助金を活用したと聞いた。自社でも活用できる補助金はあるのだろうか？

補助金の基本構造を理解する

経済産業省関連の補助金は基本的に「事業計画を立案」して、その内容が補助金の条件に適合しているかどうかを審査されます。自社の事業ですから、事業資金は自己調達为前提です。事業計画が補助金に採択されると、その事業計画を実施し、予定した投資を行い、その内容が承認を受けた内容と合致していることが検査によって確認できると、そこで初めて補助金が支払われることとなります。融資などのように補助事業を始める前に資金が提供されるものではありません。

また、今回のような動機で相談されるケースでは、「単にお金が欲しい」ということが先走り、自社の中期的な事業計画や戦略を踏まえた上で、このタイミングで新たな設備の導入や事業分野への進出をするべきかどうかという経営の根幹に関わることを熟考されていない場合が多く見られます。これは本末転倒です。

一般的には補助率3分の2か2分の1ですから、少なくとも3分の1あるいは2分の1に相当する金額は自分自身で負担しなければなりません。そこまでのリスクを負ってでもやるべきことなのかどうか、この点もしっかりと検討することが重要です。

補助金の申請書作成のポイント

補助金の申請書は事業計画の内容とそれに着手することの必然性や重要性、実現可能性及び事業実施後の経営状況の見込みを具体的に、かつ分かりやすく記述したものであるべきです。ビジュアルな構成になっていてもそれだけで採択率が上がるわけではありません。事業計画については、その目的、取り組む意義、可能性、緊急性を分かりやすく、論理的に組み立てることが肝要です。また、実施計画については実現可能性だけでなく、実際に誰がいつまでに何をするのかまで具体的に検討して計画に落とし込んでおく必要があります。その内容についても論理的に、かつ分かりやすく記述することが求められます。

申請書の原稿を作って相談に来られる場合でも、初見でこの会社はどんなことをしたいのか、それは本当に必要で、今取り組むべきことなのか、具体的なやり方は筋が通っているか、実行する体制はあるのか、といったことがすんなり理解できるかどうかを最初にチェックします。説明が不十分で、審査する人が見ても何がしたいのかが分からない内容では、採択に至りません。これは専門家にってもらうことで修正することができます。

中期的な事業計画を しっかりと考えることが重要

申請書に記載する内容は自社の中期的な事業計画の中で、どのようなことに取り組むことが必要か、ということ。とすると、自社の中期経営計画がきちんと立案されているか、年度ごとにそれが見直され、環境変化にも対応できるものになっているかどうかを最も重要であると言えます。

それがなかったとしても、補助金の申請を契機として、中期的な事業戦略を具体的に検討して、事業計画書としてまとめ上げることに繋がります。採択されれば投資資金を抑えることもできます。

補助金は、有効な事業計画に対して国や自治体が税金を投資する、という構造です。投資する国や自治体にとっては、補助したことによって業績が伸び、税金をより多く払ってもらうことで漸く投資資金が回収できることとなります。

この投資利益率(ROI)的な視点で効率が良いことも審査で評価されるポイントの一つになっています。

福井県よろず支援拠点では専門家が補助金申請や事業計画書のブラッシュアップなどの相談に、無料でお応えしています。お気軽にお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先

福井県よろず支援拠点
TEL:0776-67-7402 E-mail:yorozu@fisc.jp



第8回 福井ベンチャーピッチ開催報告 後編

「福井ベンチャーピッチ」とは、成長意欲の高いベンチャー企業に対して、VC、金融機関等の前でセールスプレゼン（ピッチ）する機会を設け、登壇企業の資金調達や販路拡大、ビジネスマッチングを促進し、全国への足がかりをつくる機会を提供するイベントです。

開催日時 ●2022年11月17日(木)
参加者数 ●324名 (会場参加者106名・オンライン参加者218名)
主催 ●公益財団法人 ふくい産業支援センター

ふくい産業支援センターでは、2022年11月17日に、第8回「福井ベンチャーピッチ」を開催いたしました。本イベントは2部構成で、第1部ではピッチ登壇経験者である、株式会社ドラフト 代表取締役CEO 伊藤佑樹氏、ファーストトレード株式会社 代表取締役社長 三上良平氏、チャンスメーカー株式会社 代表取締役CEO 平林満氏 からそれぞれ5分間の事業プレゼンをいただいたのち、「ピッチ登壇を契機に飛躍する3人の社長に聞く」と題してディスカッションいただきました。コーディネーターは、株式会社アイピーアライアンス 代表取締役社長 木嶋 豊氏に務めていただきました。第2部では、福井県の中小ベンチャー企業5社によるビジネスプレゼンテーション、ベンチャーピッチを行いました。

本稿では、福井ベンチャーピッチに登壇された5社の感想を、前編・後編に分けてお届けします。



AIで納得!「つらい症状」がみんなにわかる新アプリ

京都大学医学部附属病院
緩和医療科・緩和ケアセンター
特定講師 嶋田 和貴氏

発表概要: がんに伴う心と体のつらい症状を緩和するための緩和ケアの専門医である発表者が、緩和ケア専門職と同様にがん患者のつらい症状を理解するための機械学習アプリを開発。本アプリを社会実装するためのパートナー企業を求める。
会社設立: 未設立
期待事項: 業務提携、販路開拓、試作品開発から事業化までを包括するパートナーシップ

特許を取得して3年経つのですが、ビジネス化に向けては足踏み状態が続いていました。そんな中でピッチ登壇の機会をいただき、本事業の構想をしっかりと整理することができました。

2ヶ月間のメンタリング期間中は、事務局の方が、少しがんばれば手が届くくらいの絶妙な距離にボールを投げってくれるので、週一ペース(のメンタリング)でもがんばることができました。感謝しています。



産地工場会社[hashi-coo]で「食」×「職」顧客体験を促進!

スタイル・オブ・ジャパン株式会社
代表取締役 大森 一生氏

発表概要: 産地工場会社[hashi-coo]を設立し、箸産地の製造技術と全国工芸産地とのネットワークを生かしてオンラインとオフライン双方で楽しめる体験型プラットフォームを創造するなど、地域の持続可能性を支える循環経済を目指す。
会社設立: 2005年6月設立
期待事項: 出資・販路拡大・業務提携・コラボPR

非常に緊張しましたが、楽しかったです。福井ベンチャーピッチに挑戦した理由は、「箸屋という仕事がある」ということを世の中に知ってもらい、職種としての可能性と、地域産業としての生き残りを探るためでした。

今回のピッチ登壇をきっかけに、箸屋の可能性を感じていただき、皆さんのご意見もうかがいながら、今後の展開を考えていきたいと思っています。



地方都市 福井から「建てる」を応援する会社。

タッセイの成長戦略
株式会社タッセイ
代表取締役社長 田中陽介氏

発表概要: 福井県と石川県を中心に①建築資材・設備の商社②住宅の外装工事③大型ビルの内装工事で培ったビジネスモデルを、5年後の新規株式公開(IPO)を成長エンジンに、北陸から全国へと成長・拡大を目指す戦略を発表。
会社設立: 1949年7月設立
期待事項: IPO支援と助言・出資・人材採用・連携や協業できる企業情報の提供

2か月間のメンタリング期間は非常に貴重な時間でした。途中で嫌になって心が折れそうになる度に、事務局の方々のサポートに救われました。本当に感謝しかありません。ありがとうございました。

選考会を通過し、ピッチに登壇した結果、いろんな人に出会って、いろんなことを考えるようになり、自分自身の中で変化が生まれたことに大きな意味があったと思っています。



次回の「福井ベンチャーピッチ」は2023年秋頃に開催する予定です。登壇に興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。なお、イベントの詳細はこちらのブログ記事でもご覧いただけます。

https://www.s-project.biz/staff-blog/fvp_8

執筆者: 新産業支援部 ベンチャー・Eビジネス支援G 岡田留理



DXデビューしませんか? ~県内企業のDX事例の紹介~

ふくいDXオープンラボは、DX技術の導入支援や人材育成を支援しています。
ここでは県内企業のDX導入事例を紹介します。

現場の困りごとから デジタル技術の活用へ

1970(昭和45年)年に設立の同社は、道路・橋梁などの設計・点検、地質調査などを軸に事業を展開する企業です。

道路や橋梁などの点検業務は一般的に、高所作業車や橋梁点検車などの機材を使ったり、ロープで作業員を懸垂したりして行われます。しかし、現場の状況は多岐にわたっており、これらの方法を駆使しても損傷を十分に発見できないケースがあり、作業員による高所での作業も多少なりとも作業員を危険にさらすため、現場での困りごととなっていました。

そこで、同社ははじめに点検の支援ロボットの開発に取り組みました。



人にはできない点検をロボットで実現

同社が開発した「視る・診る」は、台車、ロッドやアームを介して接続されたカメラなどで構成され、点検車が使えない環境での近接目視点検を支援する橋梁点検支援ロボットです。このロボットが開発された時期が、トンネル天井崩落事故を機に橋やトンネルの点検が義務化された時期でもあり、トラス橋や検査路のない橋梁でも使えることから、全国500カ所以上で点検実績を積み重ねました。



橋梁の状態はカメラで確認し、作業員は安全な橋の上で作業

2022(令和4)年には、より軽量・

コンパクトな仕様の「視る・診るミニ」も開発し、これまで入ることが難しかった人道橋や、車道に隣接する側道橋などでの点検支援を可能にしました。

橋梁を3Dモデル化し新ビジネスを展開

同社では、「視る・診るミニ」でも点検できない橋の点検依頼もあり、人力に頼って橋の下をはうように点検する必要がありました。この課題を克服すべく、同社が製作したのが「マルチカメラシステム(MCS)」です。クローラユニットの台車に小型スチールカメラ10台を載せ、遠隔から操作して様々な角度からの写真を同時に撮影できる仕組みです。

同社はその撮影した写真をつなぎ合わせて、橋梁や道路などの3Dモデルも作成しています。そのモデルは0.1ミリ幅のクラックも発見できる精度で、点検、補修設計構想、図面作成などを並行して進められるだけでなく、技術者・発注者・第三者が今までと違う見地から議論できるメリットも感じています。

同社は、「これからも技術の進化にアンテナを張りながら、国が進めるDXに追随していきたいです」と話し、さらなるDXの取組みに意欲を見せています。



橋梁や道路の下や断面も確認が可能

会社概要

ジビル調査設計株式会社

〔建設コンサルタント、測量業・地質調査業、
補償コンサルタント、一級建築士事務所〕



福井市大願寺2丁目5番18号
代表者: 代表取締役 中島 正夫 氏
TEL 0776-23-7155 FAX 0776-27-7323 HP <https://www.zivil.co.jp/>

お問い合わせ先

(公財) ふくい産業支援センター DX推進チーム

TEL: 0776-67-7416 FAX: 0776-67-7439 E-mail: dx-t@fisc.jp

ふくい産業支援センターは、 学生・若者のチャレンジを応援しています

ふくい産業支援センターでは、起業やプログラマーへの挑戦など、学生・若者のチャレンジを応援しています。今回は、令和4年度に実施した2つの事業についてご紹介します。

学生起業応援事業

起業にチャレンジ!

大学生をはじめとした若者の起業を支援する事業で、今年度は3名の若き起業家を支援しました。
(令和5年3月現在)

利用者	事業内容	備考
古家 隆一郎さん KOGES 代表	オンライン学習指導事業	福井大学 4年
齋藤 恭子さん コアット 代表	小学生向けプログラミングスクール事業	星槎大学 2年
森本 新太郎さん (株)quelmap 代表取締役社長	教育用コミュニケーションアプリ事業	高志高校 2年

事業概要

- 《対象》県内学生等(在学中、卒業・中途退学から1年未満)
- 《助成限度額》95万円 《助成率》10/10
- 《対象経費》事務所賃貸料、事業運営費
- 《サポート》月1回専門家への無料相談など
- ※利用にあたっては、審査があります。
- ※詳細についてはHPでご確認ください。

利用者の声

古家 隆一郎さん

事業開始時に資金面を支援していただいたこと、月1回、継続的に専門家に相談できたことで安心して事業にチャレンジでき大変感謝しています。



古家さん

ふくいITエンジニア養成スクール

プログラマーに チャレンジ!

文系の大学生などを対象に「ふくいITエンジニア養成スクール」を開催し、プログラマーを目指す49名が参加しました。修了者からは、県内IT企業に採用されたITエンジニアが続々と誕生しています。

事業概要

- 《実施期間》4か月(R4.10月～R5.2月)
- 《学習形態》自宅等におけるオンライン受講
- 《コース》●フロントエンドコース
●バックエンドコース
- 《受講対象》県内就職を希望する大学生、専門学校の在学学生、求職者・アルバイト
- 《受講料》1コース50,000円(税込)
- 《学習支援》チャットサポート/マンツーマンレッスン
学習サポーターによる面談
- 《その他》●キャリアコンサルタントとの個別相談会
●県内企業との交流会
●企業訪問会 ●推薦状発行
- ※詳細についてはHPでご確認ください。

利用者の声

- カリキュラムは分かりやすく、メンターさんにも丁寧に教えてもらえたことで、理解することができました。
- 1つのことを最後までやり抜いたことで、採用面接に自信をもって望めました。プログラミング技術を持っていることもアピール材料になりました。

県内企業との
交流会を開催



各事業へのお問い合わせ (公財)ふくい産業支援センター 新産業支援部 TEL 0776-67-7416



GOOD
DESIGN

2022年度
グッドデザイン賞



メジャー [CocoMedi乳幼児検診用メジャー]

株式会社メディア医療デザイン研究所、イトマン株式会社

乳幼児健診が始まった1947年から市販のビニール製のメジャーをアルコールで消毒し繰り返し使用している現状。(株)メディア医療デザイン研究所が愛媛県製紙メーカーイトマン(株)とともに、乳児健診時に乳児の頭囲・胸囲を測定するディスポメジャーを開発。

1人1枚のメジャーを使用することで院内感染の予防につながり、頭囲・胸囲の計測時に素早くパーセントイル値を確認できることは複雑な看護記録・市町村への報告などの看護師の業務を効率化し、乳児健診時の乳児や家族の負担も軽減。月齢別3種のメジャーは男女児、頭囲・胸囲も同時に確認できる仕様。

使用後は健診の記念品としてプレゼントされる。主に健診に付添う母親は準備から病院に行くだけでも大変で健診後に疲労感だけが残る状況。わが子に使ったかわいいメジャーのプレゼントに喜び、病院からの新しいサービスとなる。子供が成長し小中学校では「振り返り授業」があり、幼い頃の資料を集め自分を知る学習に役立つ。看護大学ではコロナで臨地実習が減少する中、学内実習での看護教材になるなど評価を受ける。

安全と機能面だけでなく記念や資料としての価値も見出したデザイン。

【審査委員の評価】

担当審査委員 | 重野 貴 朝倉 重徳 手嶋りか 村上 存

乳幼児の健診時に感染予防対策としてディスポーザブルのメジャーが必要となった状況で、使用後廃棄するのではなく検診の記念や資料としての価値を見出した。今までになかった乳幼児検診用記念メジャーとしての価値を生み出している。また現存する商品を看護師が使用検証を徹底的に行い、基本機能としての計測のしやすさと生育状態を素早く認識できる機能性高い商品に仕上がっている。コスト感も考慮されていて、導入ハードルの低いリーズナブルな価値も持ち合わせている。1、2カ月、3、4カ月、9、10カ月の検診ごとにイラストを変えることで、成長の喜びを家族で楽しめる。また時期の経過ごとに違うメジャーがもらえるので、成長記録の収集としての楽しみも持ち合わせる。看護師の物理的負担の軽減と乳幼児の成長を楽しむ、このディスポメジャーが多くの病院で使用され育児を楽しむ一つのきっかけになることを期待する。

令和5年度 人材育成研修受講者募集中

研修内容の詳細を掲載した
研修ガイドブックを、
ご希望の方に無料で
お届けしております！



令和5年度中小企業産業大学校研修の年間カリキュラムが決定し、受講受付を開始しました！

新年度は、新講座12本を含む42本の研修プログラムを策定しました。当大学の研修プログラムを社員教育の一環として組み入れるなど、社内の人材育成にご活用ください。

締め切り間近！4～5月開催の研修

毎年好評の新入社員・若手向けの講座がそろっています。お申し込みはお早めに！

新社会人のための 仕事の基本を学ぶ講座

日時 ● 令和5年4月13日(木)・14日(金)、
10月25日(水) 9:30～17:00
6.5時間×3日間

受講料 ● 39,000円(消費税込)

対象者 ● 新入社員



〈受講者の声〉

- 半年後にフォローアップ研修があることで振り返りができたのが良かった
- 社会に活かせる知識を得られたほか、モチベーションの向上ができた
- グループワークでの意見交換により、色んな視点から考えることができた

新入・若手社員が知っておくべき 「モノづくり現場」の基礎知識

日時 ● 令和5年5月16日(火)
9:30～16:30 6時間

受講料 ● 22,000円(消費税込)

対象者 ● 技術系・製造系部門の
新入社員・若手社員

- ◆ 製造業の基礎知識を学びたい方
- ◆ 新しく製造業の仕事に従事された方



〈受講者の声〉

- 仕事に慣れてきたところだったので、あらためて考えや行動の参考になった
- 目的や作業一つ一つの意味を意識することで、仕事をもっと楽しくなると思った

NEW 新社会人、若手社員のための メンタルタフネス強化研修

日時 ● 令和5年4月21日(金)
9:30～16:30 6時間

受講料 ● 22,000円(消費税込)

対象者 ● 若手・新入社員

- ◆ 職業生活を充実させたい方
- ◆ ストレスを溜めない習慣を作りたい方



NEW 2年目社会人に求められる役割と期待 ビジネススキル習得セミナー

日時 ● 令和5年5月18日(木)・19日(金)
9:30～17:00 6.5時間×2日間

受講料 ● 33,000円(消費税込)

対象者 ● 新卒2(3)年目の社員、
第2新卒の新入社員



お申し込み・
お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター 人材育成部
〒918-8135 福井市下六条町16-15
TEL 0776-41-3775(研修担当) Email manabi@fisc.jp

ホームページからも
申込みOK
https://www.fisc.jp/
fiib/course.html/



【令和5年度4月～9月分】 令和5年度サテライト講座 受講者募集中！



《サテライト講座とは》

当サテライト講座は、東京の教室で行われている研修を、当センターの特設ブースで受講できる新しい研修スタイルです。これまで首都圏でしか受講できなかった専門的な研修を、公的機関ならではのリーズナブルな料金で実施します。

《コンテンツ提供》(株)富士通ラーニングメディア(F L M)



講座のポイント

- 福井県限定の特別料金
＜福井県からの委託を受け実施＞
- 最前列で受けている臨場感とわかりやすさ
- チャットや会話でリアルタイムに質問が可能
- 実習サポートもメイン会場と同様に受けられる
- 豊富なコースラインナップ

《受講対象》

- 県内ソフトウェア企業の社員教育に
- DXを進めたい経営者、社内のシステム担当者、IT技術者
- 広く社員にリスキング
(IT、DX対応の再教育)をさせたい企業

※お申込みは「福井県内企業」または「福井県内の個人」に限定させていただきます。

人気講座はコチラ！

プログラミングやシステム開発系の入門講座が人気です！

研修名称	受講料 (FLM料金※)
ネットワークの基礎	¥38,170 (¥63,800)
データベース基礎	¥38,170 (¥63,800)
プロジェクトマネジメントの基礎	¥28,710 (¥46,200)
UNIX / Linux入門	¥48,400 (¥83,600)

※「FLM料金」は富士通ラーニングメディア (FLM) が自社で実施する際の受講料 (令和5年3月現在) です。なお、当センターでの受講料は県の指定管理事業として実施しているため、約3割～5割ほど安価に設定されています。

研修ブース



- 講座に集中していただける個別ブースをご用意しています。
- PC・ネットワーク環境も整っており、リモート会議や自習スペースなどとしてもご利用いただけます。

お申し込み
お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター IT研修担当
TEL 0776-67-7411 E-mail pckouza@fisc.jp
本事業は、当センターが福井県から指定管理者の指定を受けて実施しているものです。

ホームページからも
お申込みできます
https://www.fisc.jp/pckouza/
satellite_r5.html



情報収集と情報発信、企業・イベントPR等に！
「ふくいナビーふくいの企業支援施策を見つけるためのポータルサイト」
をご活用ください

(公財)ふくい産業支援センターでは、県内企業の皆さまの経営に役立つ情報を集めたポータルサイト「ふくいナビ」を運営しております。

「ふくいナビ」では、下記のようなサービスを提供しておりますので、ぜひご活用ください。

イベント情報や公募情報などをまとめて見られる！

県内中小企業支援機関による講演会・セミナー等のイベント情報や、国・県等による助成金等の公募情報など、経営に役立つ情報が盛りだくさんです。

メルマガ、メーリングリストなどを無料で提供！

企業と顧客、あるいは企業同士でのコミュニケーション・ツールとして利用できる、メールマガジンやメーリングリスト等の機能を、無料で提供しています。

県内企業の情報を自ら発信！

県内中小企業の皆さまが、自社で開催するイベントや新製品の情報などを自ら発信することができます。



毎週月曜日、「ふくいナビ」の情報の中からタイムリーな情報をお届けするメールマガジン『週刊!ふくいナビ情報』を配信しています。配信をご希望の方はメールアドレスをご登録ください。

お問い合わせ先 ふくいナビ運営事務局
【(公財)ふくい産業支援センター 総務部】
TEL.0776-67-7414 E-mail info@fukui-navi.gr.jp



本誌「F-ACT(ファクト)」を活用して会社をPRしよう！

企業情報メール便

販路開拓のチャンス！
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便(チラシ同封サービス)を毎号実施いたします。配送先は、県内事業所約1,700社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか？



●次回実施号
VOL.59 5月25日発行予定
チラシ提出締切日:5月18日(木)
チラシ1,700部をご提出
(持参または配送) 願います。

同封するチラシ・パンフレットのサイズ	料金(税込)
A 4判以下のチラシ	6,600円
A 4判超～A 3判以下のチラシ (二つ折にしてA4判以下のサイズにすること)	9,900円
A 4判以下のパンフレット (10ページ程度まで)	13,200円

※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

ご利用を検討の方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。1号につき約10社まで受け付けます。

なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター 総務部 F-ACT担当
TEL:0776-67-7414 e-mail:kouhou-g@fisc.jp

本誌に関するお問い合わせは

fisc 公益財団法人 ふくい産業支援センター <https://www.fisc.jp/>
総務部 TEL 0776-67-7414/FAX 0776-67-7419/E-mail:kouhou-g@fisc.jp
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 (福井県産業情報センタービル内)

皆様の声を
お聞かせください!!

「〇〇が面白かった、ためになった」、
「△△をもう少し□□にしたらどうか」、
「●●のテーマについて紹介して欲しい」、
「▲▲会社がやっている■について取り上げて欲しい」など、本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

編集後記

こんにちは！最後まで読んでいただきありがとうございます。

今号では、「相談窓口・補助金を事業の追い風に」と題し、相談窓口、補助金を活用して事業を進める皆様にお話を伺って参りました。機器の導入や新しい事業の立ち上げ、創業などお話は様々でしたが、補助金が様々な事業に役立っているのだと感じました。ただ、採択されるまではもちろんのこと、採択された後も大変...という声も多くあり、補助金のメリット・デメリットを見極めることも大切なのだと感じました。取材にご対応いただいた皆様には改めて御礼申し上げます。

さて、今年度も終わりを迎え、新年度が始まろうとしています。ふくい産業支援センターでは、令和5年度も様々な支援事業で県内企業の皆様をご支援いたしますので、ぜひご利用ください。また、今年度も本誌をご愛読いただきありがとうございました。ご協力いただいたアンケートの結果も踏まえながら、新年度からもお役に立つ情報の発信に努めて参ります。次号の発行は5月25日を予定しておりますので、引き続きご愛読のほど、よろしくお願いいたします。



はせべや

洋食店があわら市にオープン
地域の新しい憩い場を目指して

2022年8月、芦原温泉駅近くのあわら市春宮に洋食店「はせべや」がオープンしました。同店ではオーナーの長谷部卓矢氏がハンバーグやパスタといった洋食をふるまい、ランチだけでなく、週末の夜は居酒屋としても営業しています。1番人気のメニューはハンバーグセット。ボリューム満点のハンバーグにサラダとスープ、小鉢がセットになっており、栄養バランスも良い食事を楽しむことができます。

元々蕎麦屋だった店舗を改装した店内は、落ち着いた空間で一人でも立ち寄りやすい雰囲気。来店されるお客様の層も様々だそうで、長谷部氏は「オープン当初から誰もが来やすく、寛くことのできる店舗にしたいという思いがありました。リピートしてくれるお客様も増えてきているので、これからも皆さんに愛される店舗を作っていきたいですね」と話します。

また、地元の飲食店が少なくなってきたことに寂しさを感じていたという長谷部氏。「新しい憩いの場を提供していくため、今後は地元の方々へのPRにも力を入れていきたいですね」と意気込みます。あわら市を訪れた際には「はせべや」に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

活用事業：令和4年度 商店街等空き店舗対策支援事業



↓インスタはコチラ!



はせべや
住 所:あわら市春宮1-2-33
TEL:0776-50-7407
営業時間:11:00~14:00(ラストオーダー)
17:00~22:00(金・土曜のみ)
定休日:月曜日(祝日の場合は翌日)
URL:<https://hasebeyawixsite.com/my-site>

話題の
新スポット巡礼

県内企業が打ち出した気になる新スポットに、(C)編集担当が訪問。その空間に込められたコンセプトやこだわり、企業の想いをお届けします。

No.30

商工中金は、経営の総合支援パートナーへ。

01.

全国ネットワーク支援

全国ネットワークで、
企業間の連携をサポート。

47都道府県に広がる店舗網や、7万社以上のお客さまとのリレーションを活かし、商工中金はビジネスマッチングや事業承継・M&Aなど、企業の縁結びをサポートします。

02.

組合支援

中小企業組合の活動を、
情報と金融でサポート。

個々の企業では解決しきれないさまざまな課題に、連携して対応する中小企業組合。商工中金は、組合運営のフォローや情報提供、ご融資まで、組合活動を継続的にサポートします。

03.

海外展開支援

海外進出を、情報と金融で
継続的にサポート。

海外拠点や現地の政府機関、提携金融機関とのネットワークを活かし、商工中金はお客さまの海外進出検討段階から現地での事業拡大ニーズまで、幅広くサポートします。

福井支店 〒910-0005 福井市大手3-14-9 TEL:0776(23)2090

<https://www.shokochukin.co.jp/>

商工中金

検索



人を思う。未来を思う。

商工中金